

インターナショナル新書

# 『国家の統計破壊』

明石順平 (弁護士)

定価: 本体 820 円 + 税  
体裁: 新書判 / 224 ページ  
発行: 集英社インターナショナル (発売: 集英社)  
ISBN978-4-7976-8038-6



**7月の参院選前  
必読の書!**

**6月7日(金)発売!**



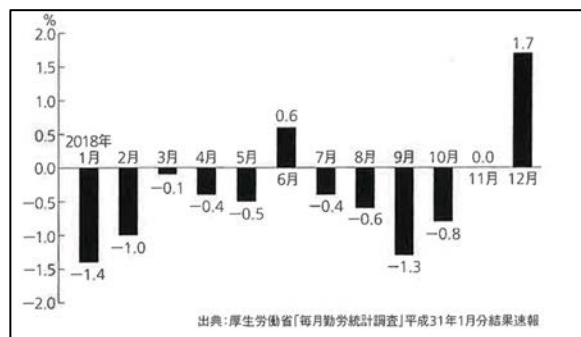
**事情を最もよく知る国会での公述人が、  
異常な統計操作の実態を暴く!**

第二次安倍政権の発足以降、わかっているだけでも 53 件の統計手法が見直され、そのうち 38 件が GDP に影響を及ぼしている。賃金や消費などの基幹統計は、国民生活と密接に結びついたものである。手法の変更によりかさ上げされた数字では連続性がまったくなく、もはや統計の意味をなさない。これは「統計破壊」と呼ぶべき異常事態である。

アベノミクスの失敗を覆い隠すような統計破壊は、なぜ行われたのか。この問題をいち早く追及し国会でも公述した著者が、公的データをもとに統計破壊の実態を暴く。

## 2018年の実質賃金前年同月比伸び率が

プラスになったのは、たったの2回！(本文より抜粋)



このように悲惨な状況なので、公表したくないだけ。2018年の実質賃金の実態は前年比マイナスなのである。

そうすると、2017年も実質賃金は前年比マイナスだったので、2年連続で実質賃金が落ちたことになってしまう。これはアベノミクスの大失敗を象徴する現象であると同時に、消費税増税に大きな障壁となるであろう。だから、事実上、もう数値が出ているにもかかわらず、意地でも公表したくない。なお、2018年の実質賃金も前年比マイナスだとすると、結局アベノミクス以降で実質賃金が前年比プラスになったのは2016年だけ、ということになる。そして、2016年に実質賃金が前年比プラスになったのは、円高が進行して消費者物価指数が前年比マイナスになったことが大きく影響している。別にアベノミクスのおかげではない。



### 明石順平 (あかし じゅんぺい)

弁護士。1984年、和歌山県生まれ、栃木県育ち。東京都立大学法学部、法政大学法科大学院を卒業。主に労働事件、消費者被害事件を担当。ブラック企業被害対策弁護士所属。著書に、アベノミクスの失敗や日本財政の問題点を、客観的なデータを用いて指摘した『アベノミクスによろしく』『データが語る日本財政の未来』(共にインターナショナル新書)がある。

※ぜひ貴媒体にてご紹介をご検討いただけますと幸いです。

#### 【お問い合わせ先】

株式会社 集英社インターナショナル 新書編集部 TEL: 03-5211-2630

<https://www.shueisha-int.co.jp/>